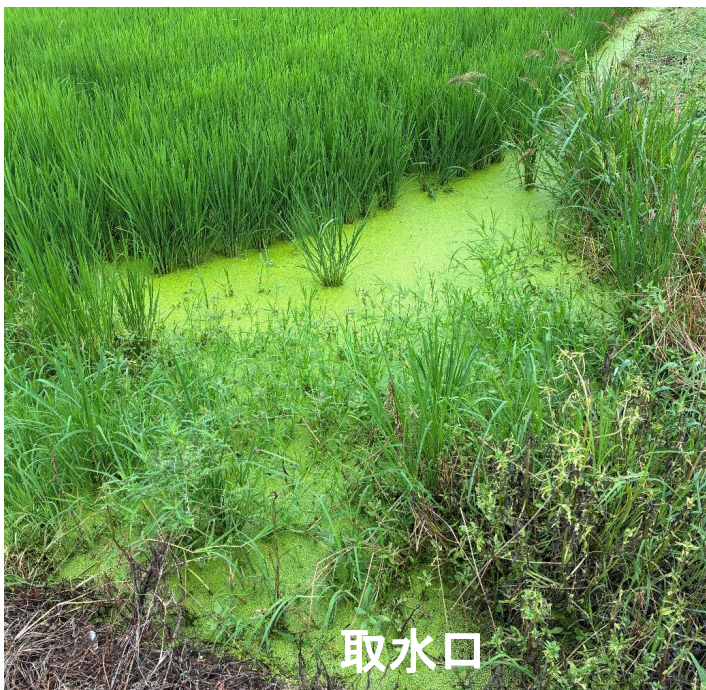


除草剤による ナガエツルノゲイトウの防除について

加西農業改良普及センター
地域課 普及主査 相川慎一郎

農地でのナガエツルノゲイトウ発生状況

水系(用排水路)を介して拡大



水口から本田に侵入



水路の泥上げから畦畔に定着

農地でのナガエツルノゲイトウ発生状況

草刈り等の断片化により、拡大・定着



フレールモアによる
草刈りの断片が定着

3

農地でのナガエツルノゲイトウ発生状況



4

除草剤は効かないのか？

～現地試験の結果～

発生地区の畦畔にて以下の除草剤の効果確認を行った。

■ ラウンドアップマックスロード

- ・茎葉処理剤(葉や茎から吸収されて枯らす効果がある薬剤)
- ・根まで枯らす効果がある。

■ ロイヤント乳剤

- ・茎葉処理剤。地上部を枯らす効果。
- ・畦畔だけでなく、本田で中後期剤として使用可能。

■ カソロン粒剤4.5

- ・土壌処理剤(土壌表面に処理層が形成され根や芽を枯らす薬剤)
- ・春先に散布して地下部を枯らす効果がある。

5

除草剤試験結果（ラウンドアップマックスロード）

- ・散布5日後には葉が黄化してしおれ、10日後には地上部は枯死。
- ・しかし、21日後に地際付近から再生芽を確認。その後、再度繁茂。

⇒地上部は枯れたが、根まで枯らす効果は確認できなかった



除草剤試験結果（ロイヤント乳剤）

- ・散布数日で葉が黄化、10日後には葉が落ちて茎だけになった。
- ・散布4週間後に地際、一部の節から再生芽を確認した。
- ・ナガエツルノゲイトウ含む広葉雑草に高い効果。イネ科雑草は残る。

⇒地上部を枯らす効果は確認された



散布直前(6/13)



散布4日後



散布21日後

7

除草剤試験結果（カソロン粒剤4.5）

- ・ナガエツルノゲイトウ発生畦畔にて萌芽まへの3月中旬に散布
- ・対照区（無散布）では4月3日に萌芽し、繁茂したが、カソロン散布区では5月下旬まで発生を抑えられた。



展示区(カソロン粒剤4.5散布)



対照区(無散布)



カソロン散布区 ← → 無散布区



対照区1㎡で採取したナガエ

【写真】5/12の様子

除草剤は効かないのか？

～現地試験の結果～

【現地試験でわかったこと】

■ 除草剤は一定の効果がある

茎葉処理剤で地上部を枯らすことができる

土壌処理剤で萌芽を遅らせる、密度を減らすことができる

■ 1回の散布で根まで枯らして絶やすことはできない

【除草剤による防除のポイント】

■ 薬剤の特性に応じたタイミングで散布する

茎葉処理剤は茎・葉にしっかりかかるように散布する

土壌処理剤は適切な時期に散布(カロン粒剤・・・春先)

■ 除草剤の体系処理で密度を抑えることが重要

9

除草剤による防除技術について

- ・農研機構が2025年5月に防除マニュアルを作成
- ・2025年の農業技術10大ニュースに選ばれている



農研機構

農林水産省委託プロジェクト研究
「農業被害をもたらす侵略的外来種の管理技術の開発」

水田における ナガエツルノゲイトウ防除マニュアル



2025年5月

TOPIC 1 2025年農業技術10大ニュース (農林水産省農林水産技術会議事務局)

地下まで効く！ナガエツルノゲイトウ防除技術 —まん延を防いで、生産者の負担を軽減—


成果のポイント (ここがスゴい！)

- ・ 水稲移植栽培期間中に使用可能な除草剤18剤について、ナガエツルノゲイトウに対する防除効果を検討し、3つの体系処理を開発。
- ・ 開発した除草剤の体系処理を2年間継続すれば、まん延した水田でもナガエツルノゲイトウの地下部まで駆除が可能。
- ・ 本技術を活用することで、ナガエツルノゲイトウがまん延した水田での雑草害を軽減することに加え、水路を介した未侵入場所への分布拡大防止が期待。

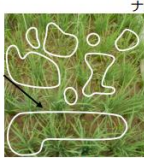
研究機関：農研機構、千葉県農林総合研究センター、神奈川県農業技術センター

月 旬	移植水田 ナガエツルノゲイトウ	実証体系の例	処理のタイミング (目安)
4月 下	代かき		
5月 上	移植	イマズメフロコ・オセサシ カロン・シラカシ・シラカシ フロコ・シラカシ・シラカシ	ナガエツルノゲイトウ発生時
5月 中			
5月 下			
6月 上	移植後40日目	フロコ・シラカシ・シラカシ シラカシ・シラカシ・シラカシ	ナガエツルノゲイトウ発生 35cm以下
6月 中			
6月 下			
7月 上	中干し		


① ナガエツルノゲイトウの外観



② 早期栽培地域(千葉県での事例)の水田における
ナガエツルノゲイトウの防除体系



ナガエツルノゲイトウの茎が繁茂



ナガエツルノゲイトウの生きた茎が水田の地表面に見られない。

③ 本技術を導入した水田での防除効果

導入により期待される効果

生産者の手取り除草等の追加的な作業を省きつつ、水田内のナガエツルノゲイトウの地上部の生育を抑制し、分布拡大を阻止。

連絡先 農研機構 植物防疫研究部門 研究推進室 TEL 029-838-6876

本田内の除草剤体系

【栽培期間中】

ナガエツルノゲイトウに有効な除草剤2～3剤を処理する「体系処理」を行う。

【水稻収穫後】

収穫後約1か月後以降（刈取後ナガエが再生するタイミング）～霜が降りるまでに「非選択性除草剤」を処理し、その1か月後以降に耕起する

主な区分	成分名	商品例
初中期剤	ピラクロニルを含む薬剤	(初期剤)ピラクロン1キロ粒剤 (一発処理剤)バッチリLX1キロ粒剤 エンペラー1キロ粒剤
中後期剤	フロルピラウキシフェンベンジルを含む薬剤	ウィードコア1キロ粒剤 ロイヤント乳剤
水田刈跡	グリホサートを含む薬剤	ラウンドアップマックスロード

11

本田内の除草剤体系

・栽培期間中の「体系処理」、収穫後の「除草剤処理と耕起の組み合わせ」で密度を低下させる

月	旬	栽培（極早生）	管理	推奨体系案 1	推奨体系案 2
4	中下	入水	代かき		
5	上	移植	初期・ 初中期一発剤	【初期剤】 ピラクロニルを含む剤 例)ピラクロン1キロ粒剤	【初中期一発剤】 ピラクロニルを含む剤 例)バッチリLX1キロ粒剤 エンペラー1キロ粒剤
	中		中後期剤	【中後期剤】 フロルピラウキシフェンベン ジルを含む剤 例)ウィードコア1キロ粒剤	
	下				
6	上中下	中干し	中後期剤・ 後期剤		【中後期剤】 フロルピラウキシフェンベン ジルを含む剤 例)ロイヤント乳剤
7	上中下				
8					
9		収穫			
10			非選択性除草剤	【非選択性除草剤】 グリホサートカリウム塩液剤 例)ラウンドアップマックス ロード	【非選択性除草剤】 グリホサートカリウム塩液剤 例)ラウンドアップマックス ロード
11～			秋耕起		

畦畔の除草剤体系

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
除草体系①	▲ カソロン 粒剤4.5			← (臨機) ラウンドアップ マックスロード →				← ラウンドアップ マックスロード →	

3月 ナガエツルノゲイトウ萌芽まへの3月中旬頃に土壌処理剤（カソロン粒剤）を散布。

6～8月 ナガエツルノゲイトウやその他の雑草の生育が旺盛な場合に、臨機防除でラウンドアップマックスロードを散布。

10～11月 地下部への養分蓄積を防ぐため、降霜でナガエツルノゲイトウが枯れる前にラウンドアップマックスロードを散布。

13

畦畔の除草剤体系

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
除草体系②	▲ カソロン 粒剤4.5				▲ ロイヤント乳剤 (水田・畦畔)	▲ ザクザ液剤 or 草刈り		← ラウンドアップ マックスロード →	

3月 ナガエツルノゲイトウ萌芽まへの3月中旬頃に土壌処理剤（カソロン粒剤）を散布。

7～8月上旬 ロイヤント乳剤を水田・畦畔同時散布（本田内と畦畔の両方に登録がある）

8月 畦畔にイネ科雑草が残っている場合、カメムシ等の対策のため、イネ科雑草の除草効果が高いザクザ液剤等を畦畔に散布する。
または、ナガエツルノゲイトウ以外の雑草を高刈り（地表から10cm前後）する。

10～11月 地下部への養分蓄積を防ぐため、降霜でナガエツルノゲイトウが枯れる前にラウンドアップマックスロードを散布。

14

除草剤を使う上での注意点

■ ラベルの記載事項を守る

適用場所や時期、散布量、回数等ラベル記載事項を遵守する

例)ラウンドアップマックスロード

作物名	適用場所	適用雑草名	10aあたり 使用量	10aあたり 希釈水量	使用時期	本剤 使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総 使用回数
水田作物 (水田畦畔)	水田畦畔	多年生雑草	200～ 1000mL	通常散布50～100L 少量散布25～50L	収穫前日まで (雑草生育期)	3回以内	雑草茎葉 散布	3回以内

■ 農薬として登録されている除草剤を使用する

- ・「**農林水産省登録第〇〇〇号**」とボトルに記載のある除草剤を使用する。
- ・農薬登録のない除草剤は、「**農薬として使用することができません**」や「**非農耕地用**」等の記載があり、農作物や樹木、芝、花き等の栽培・管理に使用することが**法律で禁止**されている。



■ 河川や水路、ため池へ流出しないようにする

- ・水路等へ飛散しないように配慮(飛散防止カバー等)
- ・残った散布液や洗浄液が水路や河川に流れないように処分

15

除草剤を正しく、効果的に使用して ナガエツルノゲイトウを防除しましょう

【防除方法に関するお問合せ先】

下記または最寄りの農業改良普及センターにご連絡ください。

兵庫県農林水産部農業改良課 電話：078-341-7711（内線74314）

兵庫県立農林水産技術総合センター農業技術センター農産園芸部（主作部門）

電話：0790-47-2410